

北海道にて



圭介はアメリカ・イギリスの産業視察中に世界に比べ日本のレベルが低いことに驚きました。この時の日本にはまだ馬車や人力車しかありませんでしたが、世界では蒸気機関車や自動車が走り回っていたからです。

帰国後、圭介はこれからの日本の産業発展には、石炭や石油などの燃料と鉄が必要不可欠だと思い、開拓使として、まず北海道の炭鉱調査に向かいました。

アメリカ人のライマンや圭介の親友の荒井郁之助らと野宿をしながら調査をし、北海道の地図や石炭の鉱脈の図を作りました。その時、北海道の名前の無い川に「大鳥川」と「荒井川」という名前がつけられました。

ついで圭介は長野・新潟などの石油を調査し、石炭や石油の調査結果を踏まえ、エネルギーとなる石炭、石油について「石炭編」「山油編」など産業発展において重要な本を何冊も出版しました。

完成したのに



明治10年2月、薩摩（現在の鹿児島県）で起こった西郷隆盛の反乱（西南戦争）で明治政府軍の熊本城が西郷軍に包囲され孤立しました。

戊辰戦争で敗れたものの、最新の兵術を身に付けていた圭介が、明治政府に仕えていることを知っている西郷らは「圭介が兵を率いてやってきたら勝ち目は無い…」と心配していました。

このとき、工部省工作局長の圭介は熊本城への物資輸送と連絡をとる為、圭介が監督をしていた工部大学校の学生達に命じ、急いで気球を作らせました。

気球は2週間で完成し試験飛行にも成功しました。しかし、別の方法で熊本城との連絡が可能になったので気球は使われませんでした。圭介は、この戦争で切腹した西郷隆盛のことを悲しく思って漢詩を作りました。

なぜ圭介は北海道の開拓使に選ばれたのでしょうか？

A 圭介は戊辰戦争で五稜郭に抛った時に、函館から江差までを歩き回って陣地を考えており、北海道について詳しく知っていたからです。また、この時すでに北海道の産業についての構想も練っていました。どんな時でも、好奇心を持って色々な事を調べていた経験が、後に生きてきたのです。

気球やカメラの他に圭介が日本で初めて作ったものは何があるのでしょうか？

A 金属活字印刷（大鳥活字）、噴水、蒸気船模型、温度計等の様々なものを日本で初めて作りました。また、目に見える物だけでなく、ダーウィンの「種の起源」を日本人で初めて読み、解説し数々の用語を作りました。今では普通に使っている「進化」という言葉も、大鳥圭介が作ったという説もあります。